

### 須恵剣友会が快挙

中学生団体で全国制覇  
小学生団体では少年玉竜旗で初優勝

少年剣道の日本一を決める、第43回全日本少年剣道錬成大会（全日本剣道道場連盟主催）が、7月30日（水）に東京都の日本武道館で行われました。

この大会の中学生団体戦に、須恵剣友会が出場して9回戦を見事勝ち抜き、決勝戦で洗心道場（愛知県）を破って初優勝を収め、全国制覇を成し遂げました。

大会は、全国の都道府県から選抜された中学生473チーム（2365人）が参加して、トーナメント方式で行われました。

また、第43回少年玉竜旗争奪剣道大会（テレビ西日本主催）が、8月2日（土）・3日（日）に福岡市の九電記念体育館で行われました。



玉竜旗で初優勝を果たした小学生メンバー



全国を制覇した中学生メンバー

この大会でも、須恵剣友会は小学生団体戦において、先鋒の小林祐輝くんが、1、2回戦での10人抜きをはじめ選手全員の活躍で勝ち進みました。そして、決勝戦で今年全日本少年剣道錬成大会の覇者である昇龍館一福道場（岡山県）を破って見事初優勝を収めました。

その他、中学生団体戦でも先鋒の百田尚生くんが1回戦での5人抜きや、本大会の前年度優勝の高岡中学校（宮崎県）などを破って初の準優勝を収めました。

大会は、全国から小学生235チーム（1175人）、中学生298チーム（1490人）が参加して、トーナメント方式で行われました。

●選手紹介

○中学生

先鋒：百田 尚生（中2）  
次鋒：小林 大輝（中3）  
中堅：伊東 聖弘（中3）  
副将：大塚 章雅（中3）  
大将：諸石 浩明（中3）

○小学生

先鋒：小林 祐輝（小6）  
次鋒：黒川 大樹（小5）  
中堅：日高 榛花（小6）  
副将：黒川 皓平（小5）  
大将：百田 尚真（小6）

### 須恵道場生3人が全国大会へ

第27回福岡県少年空手道選手権大会が、4月27日（日）に岡垣町で行われました。

この大会に、日本空手協会須恵道場（古賀慶三師範）が出場して、田邊優希くんが、小学4年男子形の部で準優勝に輝きました。その他、同形の部・組手の部で宮崎開都くんと佐々木玲緒くんがベスト8を勝ち取りました。

この結果、3選手は8月2日（土）・3日（日）に宮城県で行われた文部科学大臣杯第51回全国少年空手道選手権大会に福岡県を代表して出場し、団体組手（小学4年生男子）の部でベスト8の好成績を収めました。また、11月に宮崎県で行われる九州選抜大会への出場権も獲得しました。

古賀師範は、「3人の選手と父兄とも、次の九州選抜



好成績を収める須恵道場生

大会への出場に意欲を燃やしており、活躍が期待されます。また、須恵道場では、幼児からシニアまでの新入会員を募集中です（☎933-3889 古賀）。日本空手協会の伝統の空手道を一緒に志してみませんか。」と話されていました。

### ふれあい夏まつりが誕生

ふれあい夏まつり（第三小学校校区コミュニティ「ふれあいレインボー」主催）が、8月9日（土）に山の神グラウンドで行われました。

これは、同コミュニティがこれまで行なっていた秋まつりを見直し、校区内の6行政区と一緒に取り組み夏祭りとして行なったものです。

同校区内の6行政区では、ほとんどのところで夏祭りや盆踊りを行なっていました。しかし、祭りの規模の限界や、それに携わる人の高齢化などの問題をかかえていました。

一方、同コミュニティでは、平成13年にスタートしたこれまでの秋まつりを更に特色あるイベントにしようと考えていました。

こうしたことから、各区とコミュニティで合同の実行委員会を立ち上げ話し合いが行われ、校区を核にして校



みんな一緒に総踊り



第三小校区のみんなが集まった夏まつり

区全体で開催できるこの祭りの開催となったものです。

祭りの会場には、ステージとやぐらが設置されていました。そして、子どもたちの神輿で祭りがスタートしました。会場内には、各区や育成会などの各種団体が準備した、たこ焼やかき氷、カレーライスなどが販売されていました。また、やぐらを中心にして、婦人部や一般の人による21世紀音頭や炭坑節などの総踊りが行われました。

同レインボーの原田謙二会長は「この酷暑の中、たくさんのご参加をいただいて、この第三小学校校区ふれあいレインボーの団結心を、みんなが心をひとつにして盛りあげていただきました。この力こそが、私たちこの校区の、また、地域の発展につながるものと確信しています。一人ひとりの協力のもとに、立派なふれあいレインボーに作りあげていきたいと思っています。」と話されていました。

### 各地区でにぎやかな夏まつり

今年も暑いが続いた7月から8月にかけて、町内各地区でにぎやかな夏まつりが開催されました。

催しは、7月19日（土）に行われた新原区の「新原地蔵二十三夜祭」を皮切りに、納涼大会や盆踊りなどがありました。各地区とも、趣向をこらした行事が行われました。

7月20日（日）に開催された、旅石区の祇園相撲では、赤ちゃんの土俵入りなどが行われました。これは、化粧回し姿の赤ちゃんが土俵に上がり、健康と健やかな成長を願うものです。また、男の子は勝ち抜き相撲で、準備された賞品獲得を目指して頑張っていました。

どこの催しも、連日のうだるような熱帯夜を、少しでも涼しく過ごそうという地域の人たちで、夜遅くまでにぎわいを見せ、区民相互のコミュニティの輪が広がっていました。



たくさんの人でにぎわいます